



2019年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2019年4月11日

上場会社名 株式会社ほぼ日 上場取引所 東
 コード番号 3560 URL <https://www.hobonichi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 糸井重里
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部長 (氏名) 鈴木基男 (TEL) 03-5657-0033
 四半期報告書提出予定日 2019年4月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年8月期第2四半期の業績(2018年9月1日~2019年2月28日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年8月期第2四半期	3,467	4.0	827	10.0	829	9.9	578	10.7
2018年8月期第2四半期	3,335	22.8	752	4.6	754	5.6	522	12.9
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2019年8月期第2四半期	249.41		249.03					
2018年8月期第2四半期	225.42		224.97					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年8月期第2四半期	4,720	3,761	79.7
2018年8月期	4,696	3,324	70.8

(参考) 自己資本 2019年8月期第2四半期 3,761百万円 2018年8月期 3,324百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年8月期	—	0.00	—	45.00	45.00
2019年8月期	—	0.00			
2019年8月期(予想)			—	45.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年8月期の業績予想(2018年9月1日~2019年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,272	4.7	614	9.2	614	8.3	425	9.3	183.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年8月期2Q	2,318,000株	2018年8月期	2,317,600株
② 期末自己株式数	2019年8月期2Q	159株	2018年8月期	22株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年8月期2Q	2,317,803株	2018年8月期2Q	2,316,600株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて判断しており、多分に不確定要素を含んでいます。実際の業績は、業況の変化により予想数値と異なる可能性があります。

（決算補足説明資料の入手方法）

2019年4月15日（月）に機関投資家・アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。

なお、この説明会で配布する資料につきましては、開催後速やかに当社ホームページ <https://www.hobonichi.co.jp/> に掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における当社の経営成績は、次の表のとおりです。

	前第2四半期累計期間 (自2017年9月1日 至2018年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自2018年9月1日 至2019年2月28日)	対前年同期比 (増減額)	対前年同期比 (増減率)
売上高	3,335,252千円	3,467,917千円	132,665千円	4.0%
営業利益	752,516千円	827,664千円	75,148千円	10.0%
経常利益	754,472千円	829,163千円	74,690千円	9.9%
四半期純利益	522,200千円	578,072千円	55,872千円	10.7%

当社は、「夢に手足を。」つける会社であることを目指し、「やさしく、つよく、おもしろく。」を行動指針として、人びとに「いい時間」を味わってもらうため「場」を運営し、さまざまなコンテンツを提供しています。具体的には、ウェブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」、ギャラリーショップの「TOBICHI」、「いい時間」を味わう商店街というコンセプトのイベント「生活のたのしみ展」、古典を学ぶ「ほぼ日の学校」、犬や猫と過ごす「いい時間」を軸にしたスマートフォン用写真SNSアプリ「ドコノコ」といった、人びとがよるこんで集まる「場」を築き、こうした「場」で商品を直接個人に販売する事業を営んでいます。主力商品の『ほぼ日手帳』並びにその他一部の商品及び書籍は、卸販売も行っています。『ほぼ日手帳』は年間売上約6割を占めます。

当第2四半期累計期間における当社をとりまく事業環境として、個人のインターネット利用及びEC(電子商取引)利用が発展したことがあげられます。総務省によりますと、2017年の我が国のインターネット人口普及率は80.9%となりました。また経済産業省の調査では、2017年の日本国内のBtoC-EC市場規模は、16.5兆円(前年比9.1%増)まで拡大しました。当社の主力商品である手帳の市場規模は、民間の調査結果によりますと、2017年度では359億円(前年比0.8%増)と底堅い動きになっていると見られています。

こうした環境のもと、主力商品の『ほぼ日手帳』は、当事業年度も例年通り9月1日より、2019年版を当社ウェブ通販並びにロフト等の店頭で販売開始しました。『週間手帳weeks』シリーズや、新商品の『おおきいほぼ日5年手帳』、手帳と一緒に使う文具としての『ひきだしポーチ』が好調に推移し、それぞれ売上伸長に寄与しました。また、米国のAmazon.com及び中国のオフィシャルショップでの販売も好調に推移しました。これらの結果、販売部数は伸長し、『ほぼ日手帳』全体の売上高は前年同期比7.2%増となりました。

また、2018年9月19日～24日には2018年6月に開催した第3回「生活のたのしみ展」の巡回展を大阪・阪急うめだ本店で開催しました。これは、当社とスタイリスト、クリエイター、ブランド、企業が協同して、「生活のたのしみ」という切り口で、アパレル、生活雑貨、食品、アートといった多彩な商品をプロデュースし、商店街のように実店舗展開した販売イベントです。6日間トータルでの取引件数は、第2回、第3回と同水準の約33,000件となり、売上に貢献しました。これらの結果、売上高は3,467,917千円(前年同期比4.0%増)となりました。

原価については、原価率が相対的に低い手帳などの商品販売やライセンス収入による売上比率が前年同期に比べ高まったため、売上原価率(返品調整引当金繰入額を含む)が改善し、営業利益は827,664千円(前年同期比10.0%増)、経常利益は829,163千円(前年同期比9.9%増)となりました。保険解約返戻金10,781千円に伴う特別利益の計上及び繰延税金資産による法人税等調整額△11,226千円を計上し、四半期純利益は578,072千円(前年同期比10.7%増)となりました。

上記の業績は、当社の運営する「場」が人と社会への肯定感に根ざした姿勢のコンテンツを活発に発信し、人びとがよるこんで集まったことによりもたらされたと考えています。当第2四半期累計期間においては、さまざまな古典を学ぶ場となる「ほぼ日の学校」の第2期の歌舞伎に加え、第3期として万葉集をテーマとした講座が堅調に回数を重ね、様々な社外講師による連続講座を開いています。さらに講座を収録した動画を配信する有料サービスでは第2期の歌舞伎講座の配信が始まり講座数が増加いたしました。また、ウェブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」では、インフルエンザの大流行などもあり、感染症の専門家である岩田健太郎さんにインタビューさせていただいた「頭がすっきりする風邪の話」や、岡村靖幸さんと糸井重里による対談「結婚への道 完結編」、8年ぶりに登場いただいた笑福亭鶴瓶さんと糸井重里による対談「鶴瓶と糸井。仲良しなふたりが「いま」話したいこと。」などが多くのユーザーを集めました。ギャラリーショップ「TOBICHI」では、毎年恒例のNEW YEAR くじ引きや人間国宝・志村ふくみさんの技術と精神を受け継ぐアトリエシムラの染めのワークショップ、幡野広志さんの写真集の写

真展や、松本大洋さんの原画展など発売されている書籍にあわせた展覧会などを開催しました。犬や猫の写真SNSアプリ「ドコノコ」は2月22日ねこの日のコンテンツなどによりAppStoreに取り上げられるなど2019年2月までに約24万ダウンロードとなっています。

このように、当社は運営する「場」において、さまざまなコンテンツを提供しています。コンテンツとはクリエイティブの集積であり、読み物、キャラクター、画像、イベント、モノのかたちの商品、すべてがコンテンツであるととらえています。当社は、生活のたのしみとなるような「いい時間」を味わってもらう、そのためのコンテンツを作ったり、仕入れたり、育てたり、編集したりして、お届けしています。業績は、こうした活動の結果と考えています。

なお、当社は単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しています。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度 (2018年8月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年2月28日)	前事業年度末比増減
資産合計	4,696,433千円	4,720,557千円	24,123千円
負債合計	1,371,967千円	958,793千円	△413,174千円
純資産合計	3,324,466千円	3,761,764千円	437,298千円

(資産の部)

流動資産は、3,867,023千円と前事業年度末に比べて60,325千円の増加となりました。これは主に現金及び預金の増加775,485千円と、売掛金の減少427,816千円、商品の減少269,401千円によるものです。

有形固定資産は、139,123千円と前事業年度末に比べて9,666千円の減少となりました。これは主に減価償却によるものです。

無形固定資産は、47,268千円と前事業年度末に比べて5,197千円の増加となりました。これは主にソフトウェアの取得によるものです。

投資その他の資産は、667,141千円と前事業年度末に比べて31,732千円の減少となりました。これは主に繰延税金資産の増加27,193千円と投資有価証券の評価額の減少52,128千円によるものです。

(負債の部)

流動負債は、793,628千円と前事業年度末に比べて417,486千円の減少となりました。これは主に買掛金の減少485,383千円と、未払法人税等の増加154,088千円によるものです。

固定負債は、165,164千円と前事業年度末に比べて4,312千円の増加となりました。これは主に退職給付引当金の増加9,354千円によるものです。

(純資産の部)

純資産の部は、3,761,764千円と前事業年度末に比べて437,298千円の増加となりました。これは主に利益剰余金の増加473,781千円によるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物は2,857,489千円と前事業年度末と比べ775,485千円の増加となりました。

当四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りです。

	前第2四半期累計期間 (自2017年9月1日 至2018年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自2018年9月1日 至2019年2月28日)	対前年同期比 (増減額)
営業活動による キャッシュ・フロー	788,670千円	870,418千円	81,748千円
投資活動による キャッシュ・フロー	△20,998千円	9,727千円	30,726千円
財務活動による キャッシュ・フロー	△103,694千円	△104,910千円	△1,216千円

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、870,418千円の純収入となりました。これは主に税引前四半期純利益839,945千円、売上債権の減少額427,816千円、仕入債務の減少額485,383千円、及びたな卸資産の減少額276,474千円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、9,727千円の純収入となりました。これは主に保険解約返戻金等による収入18,584千円と有形固定資産の取得に4,082千円を支出したことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、104,910千円の純支出となりました。これは主に配当金の支払額103,976千円によるものです。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、財政状態については遡及処理後の前事業年度末の数値で比較を行っています。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

	2019年8月期 予想	2018年8月期 実績	対前期増減率
売上高	5,272百万円	5,037百万円	4.7%
営業利益	614百万円	562百万円	9.2%
経常利益	614百万円	567百万円	8.3%
当期純利益	425百万円	389百万円	9.3%

2019年8月期の業績予想につきましては、概ね計画通りに推移しており、2018年10月12日に発表いたしました通期の業績予想数値に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記
 (1) 四半期貸借対照表

	前事業年度 (2018年8月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年2月28日)
(単位:千円)		
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,082,003	2,857,489
売掛金	816,121	388,305
商品	857,737	588,335
仕掛品	21,629	14,556
貯蔵品	2,368	1,913
その他	29,607	21,049
貸倒引当金	△2,770	△4,625
流動資産合計	3,806,698	3,867,023
固定資産		
有形固定資産		
建物	165,824	165,824
工具、器具及び備品	105,763	107,710
その他	3,060	5,196
減価償却累計額	△125,859	△139,608
有形固定資産合計	148,790	139,123
無形固定資産		
投資その他の資産	42,071	47,268
投資有価証券	476,394	424,265
その他	222,479	251,133
貸倒引当金	—	△8,257
投資その他の資産合計	698,873	667,141
固定資産合計	889,735	853,533
資産合計	4,696,433	4,720,557
負債の部		
流動負債		
買掛金	788,496	303,112
賞与引当金	—	36,608
未払法人税等	136,592	290,681
返品調整引当金	9,317	1,116
その他	276,708	162,109
流動負債合計	1,211,114	793,628
固定負債		
退職給付引当金	104,707	114,062
資産除去債務	43,550	43,664
その他	12,594	7,438
固定負債合計	160,852	165,164
負債合計	1,371,967	958,793
純資産の部		
株主資本		
資本金	348,626	348,882
資本剰余金	338,626	338,882
利益剰余金	2,517,085	2,990,867
自己株式	△134	△969
株主資本合計	3,204,203	3,677,663
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	120,262	84,101
評価・換算差額等合計	120,262	84,101
純資産合計	3,324,466	3,761,764
負債純資産合計	4,696,433	4,720,557

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自2017年9月1日 至2018年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自2018年9月1日 至2019年2月28日)
売上高	3,335,252	3,467,917
売上原価	1,405,711	1,451,789
売上総利益	1,929,540	2,016,127
返品調整引当金戻入額	—	8,200
差引売上総利益	1,929,540	2,024,328
販売費及び一般管理費	1,177,023	1,196,664
営業利益	752,516	827,664
営業外収益		
業務受託料	1,270	1,270
その他	2,578	557
営業外収益合計	3,848	1,827
営業外費用		
その他	1,891	328
営業外費用合計	1,891	328
経常利益	754,472	829,163
特別利益		
保険解約返戻金	5,438	10,781
特別利益合計	5,438	10,781
税引前四半期純利益	759,911	839,945
法人税、住民税及び事業税	265,038	273,099
法人税等調整額	△27,327	△11,226
法人税等合計	237,711	261,873
四半期純利益	522,200	578,072

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自2017年9月1日 至2018年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自2018年9月1日 至2019年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	759,911	839,945
減価償却費	18,554	19,838
貸倒引当金の増減額(△は減少)	3,539	10,112
賞与引当金の増減額(△は減少)	△27,460	36,608
返品調整引当金の増減額(△は減少)	—	△8,200
退職給付引当金の増減額(△は減少)	4,527	9,354
受取利息及び受取配当金	△10	△11
為替差損益(△は益)	△1,089	△249
保険解約返戻金	△5,438	△10,781
売上債権の増減額(△は増加)	256,838	427,816
たな卸資産の増減額(△は増加)	357,494	276,474
貯蔵品の増減額(△は増加)	128	455
その他の資産の増減額(△は増加)	19,639	△1,577
仕入債務の増減額(△は減少)	△532,253	△485,383
その他の負債の増減額(△は減少)	45,992	△127,315
その他	4	—
小計	900,377	987,086
利息及び配当金の受取額	10	11
法人税等の支払額	△111,717	△116,678
営業活動によるキャッシュ・フロー	788,670	870,418
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,315	△4,082
無形固定資産の取得による支出	△24,121	△3,443
保険積立金の解約による収入	5,438	18,584
その他	—	△1,330
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20,998	9,727
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	1,043	513
自己株式の取得による支出	—	△835
配当金の支払額	△104,114	△103,976
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△623	△612
財務活動によるキャッシュ・フロー	△103,694	△104,910
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,089	249
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	665,066	775,485
現金及び現金同等物の期首残高	1,910,495	2,082,003
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,575,562	2,857,489

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しています。